

＊乾式貯蔵施設の建設に同意するな ＊9月県議会で論議を尽くせ 住民の安全より関電の原発運転継続を優先する福井県に強い憤り

8月28日に「乾式貯蔵施設の事前了解について」の県議会全員協議会が開かれることが報じられ、8月中にも県が事前了解する危険が高まり、急ぎよ、福井の皆さんと共に、8月25日に県議会と県に緊急要請行動を行いました。9月3日から始まる9月県議会での議論もなしに、性急に同意に進もうとする県と議会に対し、強く抗議しました。

福井・関西から約25名の市民が集まり、県議会には4団体（原子力発電に反対する福井県民会議、原発設置反対小浜市民の会、福井から原発を止める裁判の会、避難計画を案ずる関西連絡会）が要請書を提出、県知事には8団体が提出しました。

避難計画を案ずる関西連絡会の緊急要請書はこちらにあります。

福井県議会宛 緊急要請書 <https://x.gd/TJrwc> 福井県知事宛 緊急要請書 <https://x.gd/KLEU0>



◆県議会に要請書提出：9月3日から始まる県議会で慎重な議論をするべき



県議会への要請は13時から約30分。大会議室が用意され、対応はこれまでの陳情書提出時と同じ県議会事務局次長でした。初めに4団体が陳情項目を読み上げ、要請書を提出しました。

参加者の要請書説明や意見表明に先立って、「9月議会直前に全員協議会を開くのはなぜか」を問いました。「知事から要請があったため、開くことにした」との回答。議会として開催を決めたことの具体的経緯や理由は示されていないため、その理由を公開するように求めました。「議長と相談します」とのことでした。

その後30分という限られた時間でしたが、10数名が次々に発言しました。中でも「地震大国日本で老朽原発が稼働し続け、使用済み核燃料が溜まる不安、命・子供たちの未来がかかっている。県は住民を守ってほしい」という福井の方の言葉は切実でした。以下、発言を紹介します。

- ・ 関電の焦りを知事・議会が受けて、住民の安全より関電を優先するのは許されない。
- ・ 9月3日から議会が始まるのに、その前に急ぐのはなぜか。関電はこれまで何回も約束を反故にしている。関電に県が騙されたら、だれが責任を取るのか。
- ・ おおい町議会では六ヶ所再処理工場が進まないことに危機感もある。核施設が攻撃されることを心配する議員もいる。
- ・ 地元は安全が死活問題。全員協議会の話も新聞報道で知った。全員協議会は傍聴できず、中継だけ。住民無視も甚だしい。
- ・ 中間貯蔵施設も決まっておらず、地元の使用済み燃料が長期に置かれてしまう。
- ・ 乾式貯蔵、老朽原発の運転は住民の命・子どもたちの未来がかかっている。勝手に決めないで。

限られた時間の中で、途切れることなく語ったみなさんの言葉を、事務局次長はメモを取りながらよく聞いていました。事務局次長のまとめの返事として、要請書は全員協議会前に全ての議員に渡るようにする、それとともに、議長に皆さんの意見を伝え、必要なことは議長と相談するということでした。

◆事前了解を判断できる状況にはない。ガラス固化で再処理工場のしゅん工は遅れる

避難計画を案ずる関西連絡会は、事前了解をできる状況にないことを訴えました。6月県議会では、「再処理工場の状況も見る」として事前了解の判断は先送りになりました。今回、再処理工場の工程では、しゅん工前にガラス固化体製造を実施することになっています。

過去のアクティブ試験で原燃は、ガラス固化体製造を何度も失敗しており、困難であることは明らかです。18日の全員協議会では、エネ庁も関電も、ガラス固化の困難性については話していません。しゅん工が延びても操業には影響がないと形式的な話だけでした。

過去のアクティブ試験で製造したガラス固化体は50本で終了していますが、現在ある高レベル放射性廃液を全量固化するには約440本の固化体を製造しなければなりません。これを7か月程でできるわけがありません。ガラス固化ができなければ、当然に操業も遅れ、関電のロードマップの実効性はありません。

また、高レベル放射性廃液を全量ガラス固化体にするのかも決まっています。さらに、規制委員会は、このガラス固化体製造を原燃の「自主活動」とし、規制の対象外にしようとしています。これらは、まだこれから議論になることです。

そのため、青森県知事が求める再処理工場の「実現性の高い新工程」もまだ策定されていません。秋以降と報道されています。乾式貯蔵の建設判断をできる状況にはありません。

◆県に要請書提出：乾式貯蔵は県の使用済燃料対策の大転換。拙速に同意するな

県知事への要請は議会に提出した4団体に、ふるさとを守る高浜・おおいの会など4団体が加わって、計8団体で行いました。猛暑日でしたが、冷房の効かない狭い部屋に県の担当者と



参加者約25名、取材の報道陣が全員立ったままで、ぎゅうぎゅう詰めでした。県は受け取るだけというスタンスで、8団体が順に要請事項などを読み上げていきました。予定の10分を大幅に超え、28日に全員協議会を開こうとする県への激しい憤りや抗議、熱い訴えが続きました。

最後に要請書を渡した福井の方が、「乾式貯蔵施設はこれまで県外へと言ってきた使用済み燃料対策を大転換するもので、県は事前了解には大きな責任が伴うということを認識すべきだ」と指摘しました。

県の担当者はメモも取らず形式的に受け取るだけで、要請書の内容と参加者の熱量が知事に伝わるのか心もとなく感じました。要請書を提出する前に知事に伝えるよう確認をしましたが、提出後にも、知事にきちんと伝え、全ての要請書をしっかり読んでもらうように念を押して終了しました。

翌日には各紙で報道されました。

8月27日 避難計画を案ずる関西連絡会 要請行動参加者一同